

プルトニウム利用計画について

2026年2月20日
北陸電力株式会社

当社をはじめ各電力会社は、具体的なプルトニウム利用計画について、別紙のとおり取りまとめましたので、お知らせします。

プルトニウム利用計画は、利用目的のないプルトニウムは持たないという原子力委員会の基本的な考え方に基づき、プルトニウム利用の透明性を確保する観点から、プルトニウムの所有量や利用目的を記載した利用計画を公表するものです。

プルトニウムの利用にあたっては、地域の皆さまのご理解を得て進めてまいります。

以 上

別紙 プルトニウム利用計画

プルトニウム利用計画

出典：電気事業連合会資料(2026年2月20日)

所有者	所有量(トンPut)*1 (2025年度末予想)	利用目的(軽水炉燃料として利用)					年間利用 目安量*5 (トンPut/年)	(参考) 現在貯蔵する使用 済燃料の量(トンU) (2024年度末実績)
		プルサーマルを実施する原子炉 及び これまでの調整も踏まえ、地元の理解を前提として、 各社がプルサーマルを実施することを想定している原子炉 *2	利用量(トンPut)*1,*3,*4					
			2026年度	2027年度	2028年度			
北海道電力	0.3	泊発電所3号機	—	—	—	約0.5	510	
東北電力	0.7	女川原子力発電所3号機	—	—	—	約0.4	700	
東京電力HD	13.5	立地地域の皆さまからの信頼回復に努めること、及び確実なプルトニウム消費を基本に、東京電力HDのいずれかの原子炉で実施	—	—	—	—	7,040	
中部電力	3.9	浜岡原子力発電所4号機	—	—	—	約0.6	1,380	
北陸電力	0.3	志賀原子力発電所1号機	—	—	—	約0.1	170	
関西電力	11.3	高浜発電所3, 4号機	0.7	0.7	0.0	約1.1	4,600	
		大飯発電所1～2基	—	—	—	約0.5～1.1		
中国電力	1.4	島根原子力発電所2号機	—	—	—	約0.4	610	
四国電力	1.4	伊方発電所3号機	0.0	0.0	0.0	約0.5	940	
九州電力	2.3	玄海原子力発電所3号機	0.0	0.0	0.0	約0.5	2,750	
日本原子力発電	5.0	敦賀発電所2号機	—	—	—	約0.5	1,180	
		東海第二発電所	—	—	—	約0.3		
電源開発	他電力より必要量を譲受*6	大間原子力発電所	—	—	—	約1.7		
合計	40.1		0.7	0.7	0		19,880	
再処理による回収見込みプルトニウム量(トンPut)*7			0.0	0.6	1.4			
所有量合計値(トンPut)*8			39.4	39.3	40.7			

本計画は、今後、再稼働やプルサーマル計画の進展、MOX燃料工場の操業開始などを踏まえ、順次、詳細なものとしていく。

- *1 全プルトニウム(Put)量を記載。(所有量は小数点第2位を四捨五入の関係で、合計が合わない場合がある)
- *2 従来から計画している利用場所。なお、利用場所は今後の検討により変わる可能性がある。
- *3 国内MOX燃料の利用開始時期は、2031年度以降となる見込み。
- *4 「0.0」: プルサーマルが実施できる状態の場合
「-」: プルサーマルが実施できない状態の場合
- *5 「年間利用目安量」は、各電気事業者の計画しているプルサーマルにおいて、利用場所に装荷するMOX燃料に含まれるプルトニウムの1年当りに換算した量を記載している。
- *6 仏国回収分のプルトニウムの一部が電気事業者より電源開発に譲渡される予定。
- *7 「六ヶ所再処理施設およびMOX燃料加工施設 暫定操業計画」(2026年1月28日、日本原燃株式会社)に示されるプルトニウム回収見込み量。
プルトニウム回収見込量は、最終的には、使用済燃料再処理・廃炉推進機構が策定し経済産業大臣が認可する使用済燃料再処理等実施中期計画に示される。
- *8 プルトニウム所有量(2025年度末予想)をベースに、今後のプルトニウム利用量および「六ヶ所再処理施設およびMOX燃料加工施設 暫定操業計画」(2026年1月28日、日本原燃株式会社)に示されるプルトニウム回収見込み量を用いて算出したものである。